

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価計画

達成度(評価)

- A: 十分達成できている
- B: おおむね達成できている
- C: やや不十分である
- D: 不十分である

<b>学校名</b>	武雄市立橋小学校
<b>1 前年度 評価結果の概要</b>	<p>・学校評価のアンケートでは、中間評価と最終評価にあまり大きな差はない。感染症対策のため、行事の見直しを行い目的や方法についてその都度知らせてきたので、学校の方針をよく理解していただいた結果であると考え。学級閉鎖に備えて、リモート授業にも対応したことが、家庭での自主学習の取組とICTの活用力アップにつながった。</p> <p>・志を高める教育として掲げている「ときわっ子体験活動」については、90%以上の児童が、学習した内容が自分のためになったと回答している。しかし、今年度は十分な体験活動ができず、「体験活動を通して、郷土について学びを得た」とは言い難い。次年度は、校内研の方法を工夫し、真に郷土について学びを得たと実感できる体験活動を計画・実施したい。</p>
<b>2 学校教育目標</b>	生きる力を身に付け、学校・家庭・地域の思いを受け継ぐ ときわっ子の育成
<b>3 本年度の重点目標</b>	ア、確かな学力を育む教育活動の推進      イ、豊かな心を育む教育活動の推進      ウ、健やかな体を育む教育活動の推進      エ、特別支援教育活動の推進      オ、幼・保・小・中連携の推進 カ、時代のニーズに対応した教育の推進      キ、家庭・地域との連携強化      ク、働き方改革の推進

<b>4 重点取組内容・成果指標</b>	<b>5 最終評価</b>
----------------------	---------------

(1) 共通評価項目				5 最終評価			
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。				
	○基礎学力を含む知識及び技能の定着を図り、活用力の向上を目指す。	・市販テストにおける「思考・判断・表現」の得点が、全国平均を上回る児童が60%以上。 ・保護者アンケートの基礎学力向上の成果で「そう思う」回答60%以上。	・テストごとに達成度合いを調べ振り返る。 ・各学級での取組を保護者に保護者面談や学級通信等で周知する。				
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	●豊かな心についてのアンケートにおいて肯定的な回答をした児童が85%以上(児童アンケートにて)	・道徳の授業の充実 ・道徳的掲示板「ときわの木」の充実(低中高学年) ・児童アンケートで、友達との関係について肯定的な回答した児童が85%以上。				
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	●いじめ防止について、教師の組織的対応ができたと回答する職員が、80%以上(教職員アンケート)	・いじめに関するアンケートや学期に1回のQ/Uアンケートを実施し、児童の状況把握に努める。 ・毎月の児童支援連絡会で気になる事案等について共通理解を図る。				
	○体験活動を中心とした郷土について学ぶ体験活動の充実	●体験活動についてのアンケートで、郷土についての学びを得たと考える児童が90%以上。	・生活科、総合的な学習の時間における体験活動についてのアンケートを実施し、児童の変容を考察する。 ・学期末に、教職員へのアンケートを実施する。				
●健康・体づくり	●「美味しい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える児童90%以上(児童アンケート) ・「好き嫌いをせず食べている」と回答した児童が80%以上。(児童アンケート)	・児童に食育標語を書かせ食に関する興味・関心をもたせることで、食事の重要性や感謝の気持ちを育む。 ・給食委員会の活動として、給食の月目標や季節や行事に関わる食材や栄養についての情報を発信していく。				
	○体育的行事や健康委員会による活動の充実	●体力テストで全国平均を上回った項目が70%以上	・健康委員会によるスポーツチャレンジの実施や外遊びの奨励。 ・体育的行事に合わせ、強化週間や旬間を設定し、児童が運動に意欲的に取り組めるようにする。				
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間(月45時間、年間360時間)の上限を遵守する。	・定時退勤日を設定し、見直しをもった業務を行うようにする。 ・多忙化対策委員会を実施し、行事等の精選、校務分掌について状況把握をし検討する。				
	○学校行事や会議等の精選・効率化の推進	○職員会議のペーパーレス化による効率化を図り、20%の時間短縮を実践する。	・会議、行事等の内容について、教育効果を吟味し、教育活動の精選を行う。				

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目							
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○特別支援教育の充実	○特別支援教育研修及びケース会議の充実	○特別支援に関する専門性が向上したと認識した教職員が70%以上(研修後のアンケート)	・交流学級と連携を図り、教師の専門性を高めるための特別支援に関する研修会の実施。 ・ケース会議の実施、情報交換				
○時代のニーズに対応した教育の推進	○ICT活用の充実	○タブレットを活用した授業が「分かりやすい」と回答する児童70%以上。	・教科等の学習での積極的な活用を行い、教師のスキル向上、情報共有のための時間確保をする。 ・情報モラル教室を3～6年生を対象に行う。				
	○防災教育の充実	○防災講座・集団下校後のアンケートで、「防災意識が高まった」と回答する児童70%以上。	・地域消防団を講師とする防災講座を全校児童を対象に行う。 ・定期的ほか、警報発令時に集団下校率を行う。				

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

<b>5 総合評価・次年度への展望</b>	
-----------------------	--